

# 第1回板橋区消防団運営委員会会議資料

委員の皆様には日ごろから板橋区の消防・防災行政にご理解ご協力を賜り、ありがとうございます。

板橋区危機管理部地域防災支援課  
東京消防庁 板橋消防署 警防課  
東京消防庁 志村消防署 警防課

# 特別区消防団運営委員会への諮問について

## 1 諮問事項

変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか

## 2 審議期間

令和5年8月から令和7年3月末日まで（1年8か月）〈審議回数：令和5年度1回、令和6年度2回 計3回〉  
(予定)

## 3 諮問の趣旨

特別区消防団は、地域になくってはならない代替性のない存在であり、地域防災力の中核として、住民の負託に応えてきたところです。

さらに、本年（令和5年）は、関東大震災から100年の節目の年であるなど、消防団への期待はさらに高まっており、東京の安全安心を守っていくためには地域防災力の中核を担う消防団が、将来にわたって更に充実し、消防団としての役割を果たしていく必要があります。

一方で、特別区においては、人口が2035年ごろに減少に転じ、2050年をピークに高齢化が進行すると予測されているほか、近年は、DXの進展によるテレワークなどの働き方の多様化や、単身世帯の増加による地域コミュニティの希薄化など、社会情勢は常に変化しているところです。

このことから、各消防団や各区の特性なども踏まえながら、変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ、住民の負託に応え続ける方策について諮問するものです。

## 課題並びに検討事項

### 課題 1

地域防災の要である消防団として、変化及び成長していくことが重要である。

#### 検討事項 1 - 1

入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策について、区の地域特性や消防団の現況（構成等）を踏まえ検討する

#### 検討事項 1 - 2

最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策について検討する。

### 課題 2

活動力を地域で発揮していくことで、地域住民の負託に応え続けることが重要である。

#### 検討事項 2 - 1

消防力維持のため、計画的な人材育成方策について検討する。

#### 検討事項 2 - 2

地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策について検討する。

## 課題に対する検討事項と検討の方向性

課題 1 地域防災の要である消防団として、変化及び成長していくことが重要である。

### 検討事項 1 - 1

入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策について、区の地域特性や消防団の現況（構成等）を踏まえ検討する。

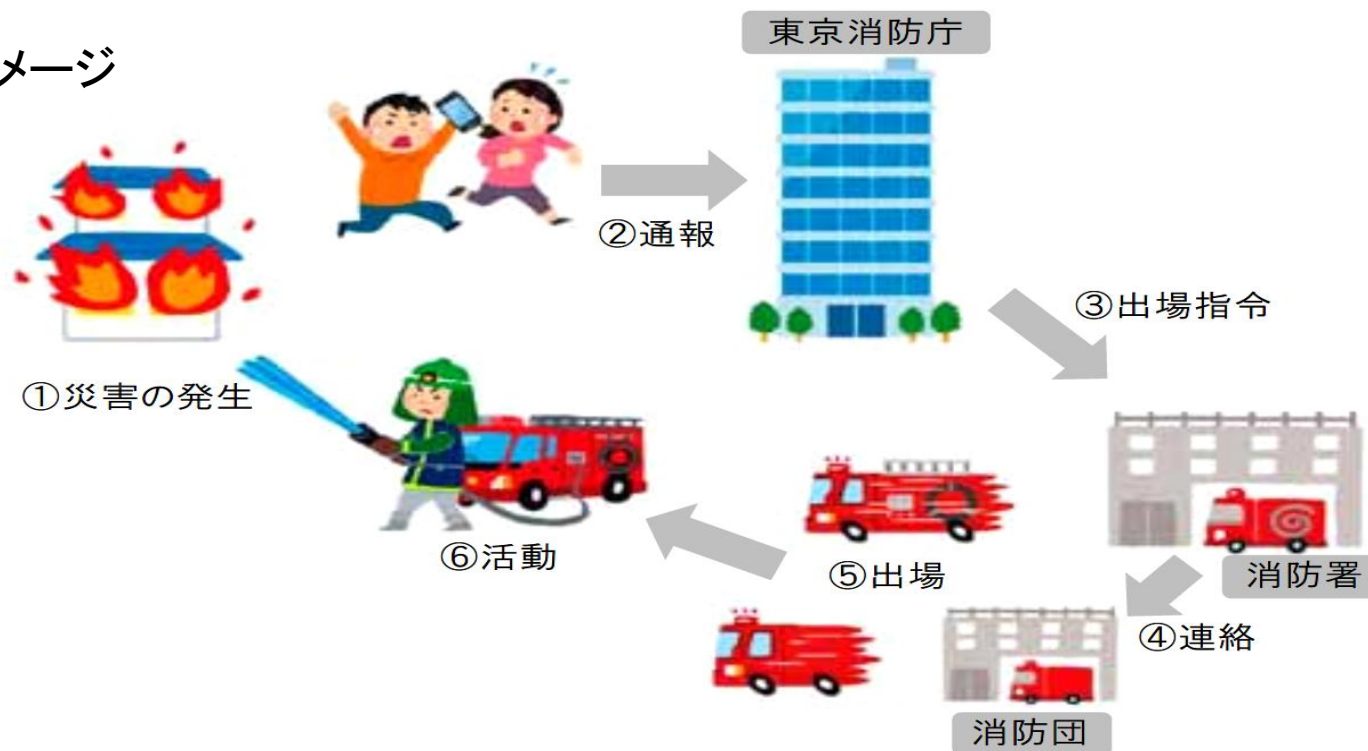
### 検討の方向性 1 - 1

- ① 団活動によるスキルアップを図る方策についての検討
  - ・ 消火活動及び応急救護能力の向上など、目的に合わせた団員の技能向上方策の検討
  - ・ 検討結果に基づき、スキルアップ、モチベーション維持について方策内容を検討
- ② 資格取得講座の拡充等の検討
  - ・ 既存講座の拡充や消防団活動において必要な資格等について検討
  - ・ 多様な職業等からなる消防団の特性を活かした団員から団員への講話や研修の検討
  - ・ 大規模災害（地震・水災・噴火災害）を経験した団員の講話の聴講の検討
- ③ 多様な主体との協働による地域密着型の各種講習や教養講座の検討
  - ・ 各地域に根付いている企業や官公庁、消防団協力事業所等と連携した講習や講座、ワークショップの発掘

## モチベーション向上のための報酬制度の導入

消防団員が積極的に参加し続けるための報酬制度を導入することが考えられる。例えば、積極的に活動している消防団員をサポートするための出勤率や訓練成績に応じて手当の増額や特典を与えるなど貢献度に応じた報酬制度を改める。

### 火災活動イメージ



## 入団体験プログラムの実施による多様な主体との協働での地域密着型連携活動

新聞やインターネット、ラジオなどを通じ、各種行事に参加者を集い消防団の活動や資器材を活用した訓練を参加者の方々に体験してもらい、消防団の魅力や活動を披露することによる消防団活動の重要性を伝え、入団促進に繋げるとともに、説明する団員は、団員としての誇りを持ってもらう。



## 課題に対する検討事項と検討の方向性

課題 1 地域防災の要である消防団として、変化及び成長していくことが重要である。

### 検討事項 1 - 2

最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策について検討する。

### 検討の方向性 1 - 2

- ① 災害への出場命令や、団員間の情報伝達のあり方の検討
  - ・ M C A 無線に代わる無線機への更新や配置人員の見直し、無線関係機器の統合による利便性の向上方策
  - ・ 電話や緊急情報伝達システムの出場指令以外の手段の導入
- ② 消防団事務の効率化が可能なタブレットを活用したシステムの検討
  - ・ 現行整備されているタブレット端末の更新に合わせた新たなアプリやシステムの導入
- ③ 各種資機材の更新に合わせた仕様変更等の検討
  - ・ 環境に配慮した装備資機材の検討や仕様変更による利便性の向上、負担軽減方策
  - ・ 震災・水災以外の降灰被害等に対応した資器材の整備検討

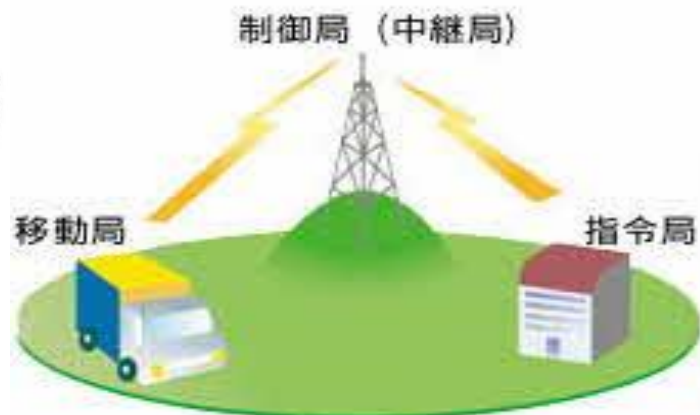


## 特別区消防団専用無線通信機(MCA無線機)

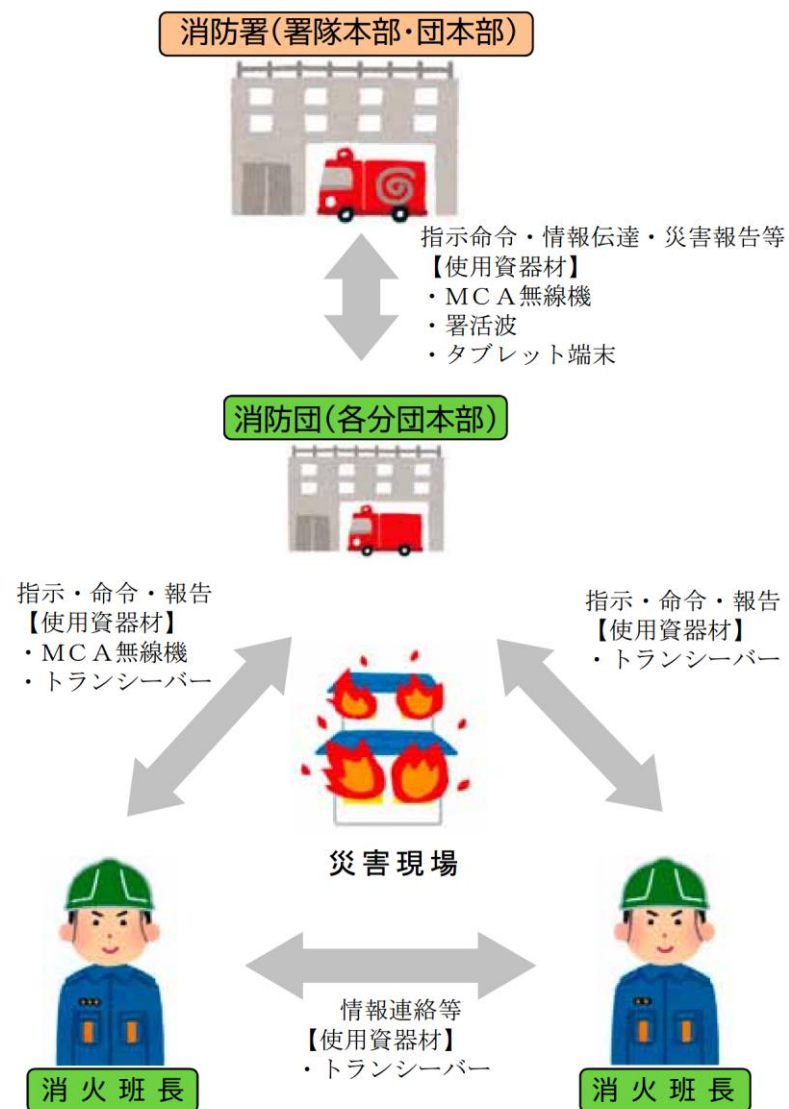
特別区消防団の災害現場等における情報伝達体制を強化し、総合的な災害対応力を向上させるため、特別区消防団専用の無線通信機として整備しています。

特別区消防団専用無線通信機は、800MHz帯デジタルMCA（マルチ・チャンネル・アクセス）無線で、中継局（新宿・江東等）を経由して通信が行われます。

※ 使用する消防団員には第三級陸上特殊無線技士のような資格は必要ありません。



## 情報収集体制図





# モバイル機器(タブレット・モバイルルーター)

## 災害時

団本部・分団本部での各種災害情報等の収集  
(タブレット、団員のスマートフォン等)  
オンライン会議やチャット等による、各分団  
の状況把握及び活動体制の確立

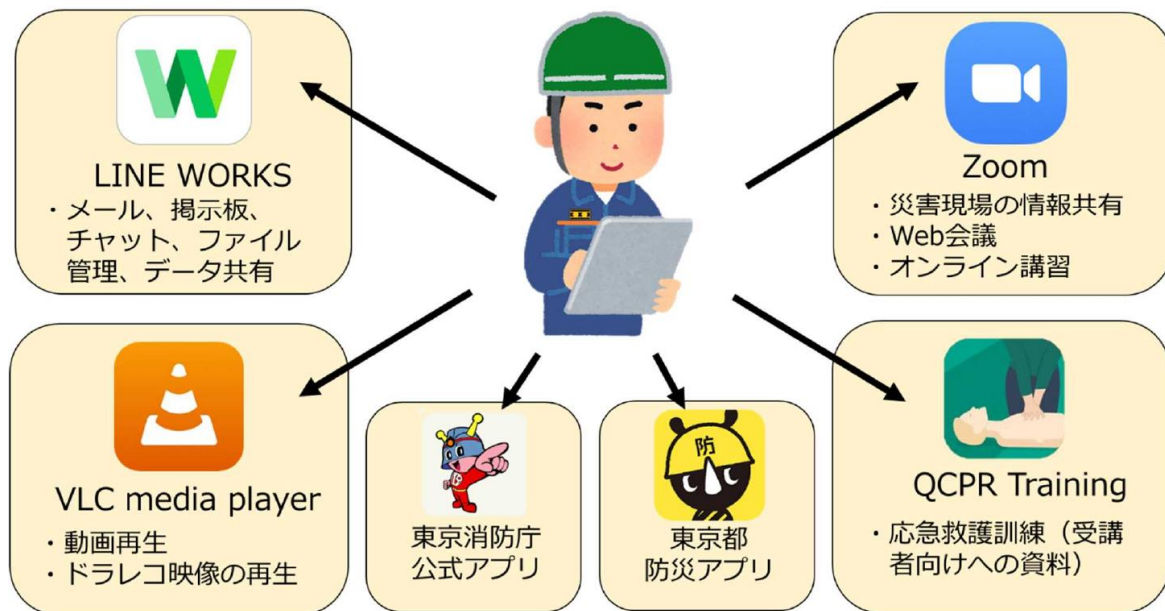


## 平常時

各種オンライン会議  
オンライン講習  
応急救護訓練等(応急救護訓練  
用資機材との連携ができます)



## タブレット概要



分野	降灰による主な影響
鉄道	微量の降灰で地上路線の運行が停止する。大部分が地下の路線でも、地上路線の運行停止による需要増加や、車両・作業員の不足等により運行停止や輸送力低下が発生する。また、停電エリアでは地上路線、地下路線ともに運行が停止する。
道路	乾燥時 10cm 以上、降雨時 3cm 以上の降灰で二輪駆動車が通行不能となる。当該値未満でも、視界不良による安全通行困難、道路上の火山灰や、鉄道停止に伴う交通量増等による、速度低下や渋滞が発生する。
物資	一時滞留者や人口の多い地域では、少量の降灰でも買い占め等により、店舗の食料、飲料水等の売り切れが生じる。道路の交通支障が生じると、物資の配送困難、店舗等の営業困難により生活物資が入手困難となる。
人の移動	鉄道の運行停止とそれに伴う周辺道路の渋滞による一時滞留者の発生、帰宅・出勤等の移動困難が生じる。さらに、道路交通に支障が生じると、移動手段が徒歩に制限される。また、空路、海路の移動についても制限が生じる。
電力	降雨時 0.3cm 以上で碍子の絶縁低下による停電が発生する。数cm 以上で火力発電所の吸気フィルタの交換頻度の増加等による発電量の低下が生じる。電力供給量の低下が著しく、需要の抑制や電力融通等の対応でも必要な供給力が確保しきれない場合は停電に至る。
通信	噴火直後には利用者増による電話の輻輳が生じる。降雨時に、基地局等の通信アンテナへ火山灰が付着すると通信が阻害される。電工エリアの基地局等で非常用発電設備の燃料切れが生じると通信障害が発生する。
上水道	原水の水質が悪化し、浄水施設の処理能力を超えることで、水道水が飲用に適さなくなる、または断水となる。停電エリアでは、浄水場及び配水施設等が運転停止し、断水が発生する。
下水道	降雨時、下水管路（雨水）の閉塞により、閉塞上流から雨水があふれる。停電エリアの処理施設・ポンプで非常用発電設備の燃料切れが生じると下水道の使用が制限される。
建物	降雨時 30cm 以上の堆積厚で木造家屋が火山灰の重みで倒壊するものが発生する。体育館等の大スパン・緩勾配屋根の大型建物は、積雪荷重を超えるような降灰重量がかかると損壊するものが発生する。5cm 以上の堆積厚で空調設備の室外機に不具合が生じる。
健康被害	降灰による健康被害としては目・鼻・のど・気管支等に異常を生じることがある。呼吸器疾患や心疾患のある人々は症状が増悪するなどの影響を受ける可能性が高い。

出典：内閣府ホームページ 防災の情報ページ大規模噴火時の広域降灰対策について一首都圏における降灰の影響と対策一～富士山噴 火をモデルケースに～（報告）

# 主な影響の閾値(降雨なし・停電なし)

項目	火山灰の堆積厚					
	微量	0.3cm～	3cm～	10cm～	30cm～	45cm～
交通	<b>鉄道</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地上路線の運行停止</li> <li>・大部分が地下の路線でも、地上路線の運行停止による需要増加や、車両・作業員の不足等により運行停止や輸送力低下が発生</li> </ul>	【堆積厚によらない影響】 ・折り返し運転が長期間に及ぶと、必要な車両検査ができず使用可能な車両が減少し、輸送力が低下。				
	<b>道路</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道の運行停止による需要増加等により、交通量が多い道路で渋滞の発生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・路上の火山灰による速度低下、渋滞の発生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二輪駆動車の通行不能</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・四輪駆動車の通行不能 (履帯車等の特殊車両は可能)</li> </ul>	
波及影響	<b>物資</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一時滞留者や、人口の多い地域では、買い占め等により、食料、飲料水等の店舗での在庫の売り切れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路の輸送力の低下により物流が滞り、食料、飲料水等の店舗での在庫の売り切れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トラック等の二輪駆動車の通行不能による物資の配送困難、店舗等の営業困難による、生活物資の入手困難</li> <li>・物流寸断に伴う事業所等の操業停止</li> </ul>			
	<b>人の移動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道の運行停止とそれに伴う周辺道路の渋滞による、一時滞留者の発生。帰宅・等移動困難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・路上の火山灰で道路が渋滞し、車での移動に著しく時間がかかる 出勤</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自家用車が使えなくなり、移動手段が徒歩に制限される</li> </ul>			

出典:内閣府ホームページ 防災の情報ページ大規模噴火時の広域降灰対策について一首都圏における降灰の影響と対策一～富士山噴火をモデルケースに～(報告)

項目	火山灰の堆積厚					
	微量	0.3cm～	3cm～	10cm～	30cm～	45cm～
ライフライン	電力			●	●	●
	通信	●			●	●
	上水道		●	●	●	●
	下水道		●	●	●	●
	建物				●	●
				●	●	●

● 噴火直後大量のアクセスにより電話がつながりにくなる

【堆積厚によらない影響】  
火山灰が原水に混ざり水質が悪化し、浄水施設の処理能力を超えることで、水道水が飲用に適さなくなる、または断水する可能性がある。  
● 水需要が増加することにより水不足が生じる可能性がある。

【堆積厚によらない影響】  
● 沈殿池の埋積、ろ過材の目詰まり等により、下水処理場の処理能力が低下・機能不全となって、下水道の使用が制限される可能性がある。

● 火力発電所は、吸気フィルターの交換頻度の増加により発電量が低下する

● 基地局の空調設備に不具合が生じると、機器が正常に動作しなくなり、通信障害が生じる

● 体育館等、長スパン建物の損壊（避難所・滞在施設としての使用不可）

● 木造家屋の倒壊

太字：火山灰の直接影響  
細斜字：他の影響からの波及影響

出典：内閣府ホームページ 防災の情報ページ大規模噴火時の広域降灰対策について一首都圏における降灰の影響と対策一～富士山噴火をモデルケースに～（報告）

## 課題に対する検討事項と検討の方向性

課題 2 活動力を地域で発揮していくことで、地域住民の負託に応え続けることが重要である。

### 検討事項 2 - 1

消防力維持のため、計画的な人材育成方策について検討する。

### 検討の方向性 2 - 1

- ① 経験が浅い消防団員への教育訓練体制や目標、内容の検討
  - ・ 具体的訓練目標や到達状況の確認の実施（目標成果シートの作成など）
  - ・ 団員の活動技術や実績に応じた識別方策
- ② 経験豊富な団員（中核となる団員）による訓練指導体制等の検討
  - ・ 長年の消防団活動で培った知識や技術を実戦的訓練指導への反映（指導マニュアルの作成）
  - ・ 訓練指導者の研修や体制方策
- ③ 操法訓練と実動訓練の実施の目安などの検討
- ④ 訓練効果の確認方策について検討



## 課題に対する検討事項と検討の方向性

課題 2 活動力を地域で発揮していくことで、地域住民の負託に応え続けることが重要である。

### 検討事項 2 - 2

地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策について検討する。

### 検討の方向性 2 - 2

- ① 積極的な災害活動の定着化と区等と連携した普及方法の検討
  - ・ 消防団員が災害活動に従事する更なる意識向上のための方策
  - ・ 区や関係団体と連携した、消防団活動の新たな認知度向上方策
- ② 地域から、より理解と信頼を得る消防団づくりの検討
  - ・ 地域行事や消防団行事などを通じた、地域住民の消防団活動に対する理解促進方策
  - ・ 消防団員が行う総合防災教育等を通じた、将来を見据えた児童・生徒の消防団活動に対する理解促進方策



## 現状考えられる方策

各種災害の現状（水災、地震、噴火）を捉えて、いざという時に指揮、判断、活動ができる消防団員を各町会・自治会から防災リーダーとして2名以上の協力を得る。

SNS等に各消防団公設アカウント作成し、活動内容をアピールするとともに、活動予定を告知し Vチューバー インターネット広告などと合わせた広報による募集活動を行う。

区と各種団体等とのコラボ企画で、区職員が防災クイズを行った実績から、これに団員も参加し、消防団に関するクイズを出して消防団を知ってもらおう。

板橋区への転入手続きに来庁した方に対し、区役所窓口で配布している資料の中に、消防団募集のチラシを入れてもらえれば、消防団の認知度向上や入団促進を図る。

（転入者数 R3：38,950人、R2：39,811人 区HPより）

R6年度に、全国初の都市防災技術科を創設する高等学校があることから、授業カリキュラムに組み込まれている防災に関する授業において消防団を知って、感じて、身近な存在であることをわかってもらう。

## 今後の日程について

第1回

令和6年1月25日（木）

諮問事項についての説明  
意見収集※

第2回

令和6年9月中旬

答申（案）に対する議論

第3回

令和7年1月中旬～下旬

答申の取りまとめ

答申

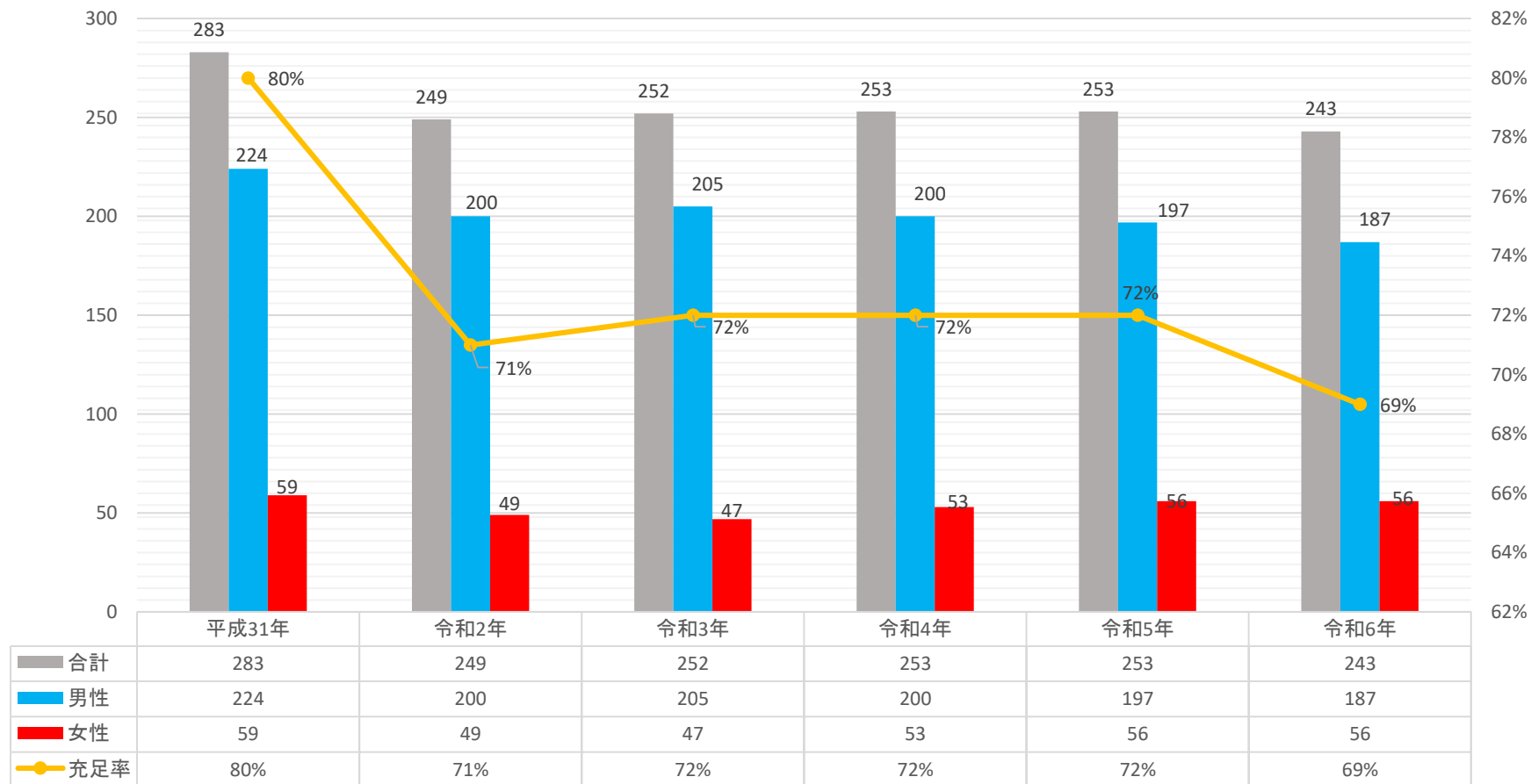
令和7年3月末まで

東京消防庁防災部への答申提出  
各委員への答申送付

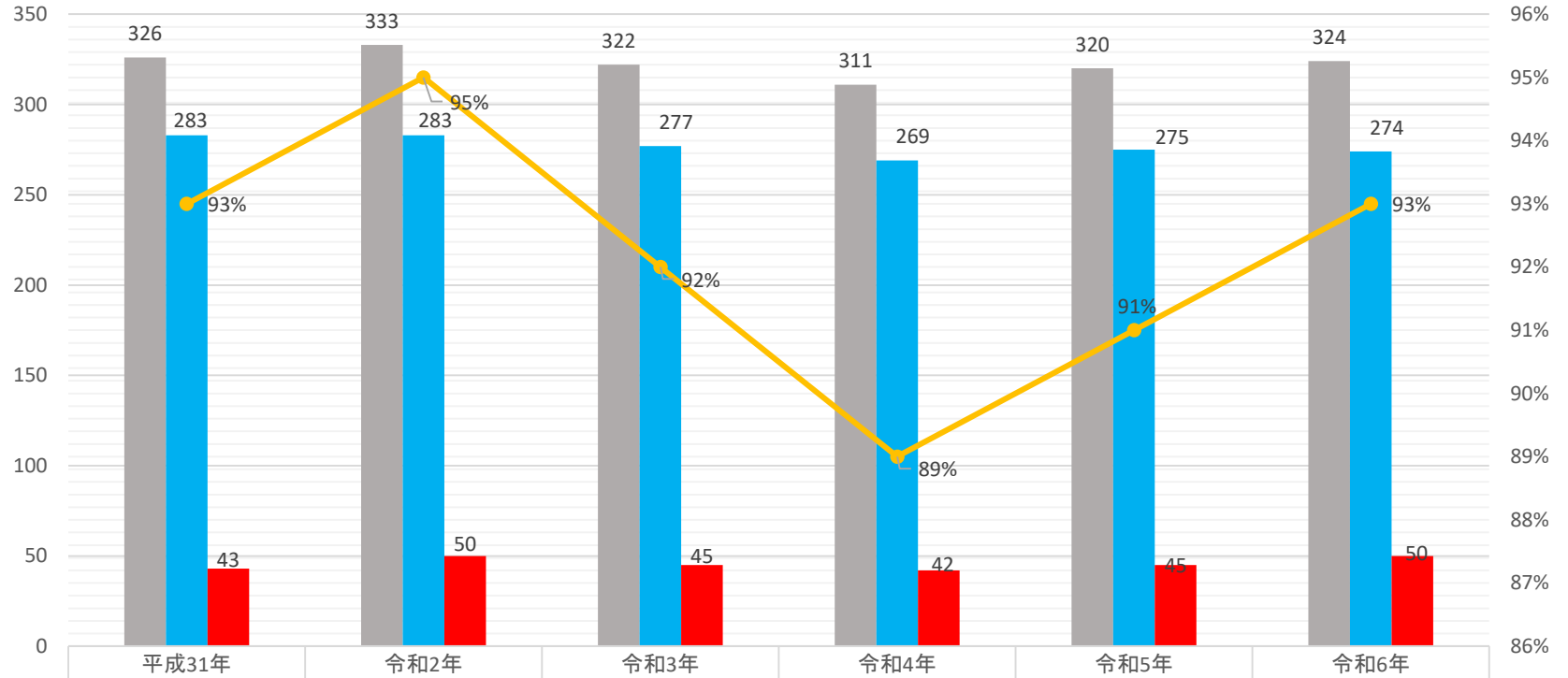
※第1回運営委員会に伴う意見は、任意の様式により3月31日までに  
板橋区役所危機管理部地域防災支援課へ送信してください。

# 別添え

## 板橋消防団員数の推移

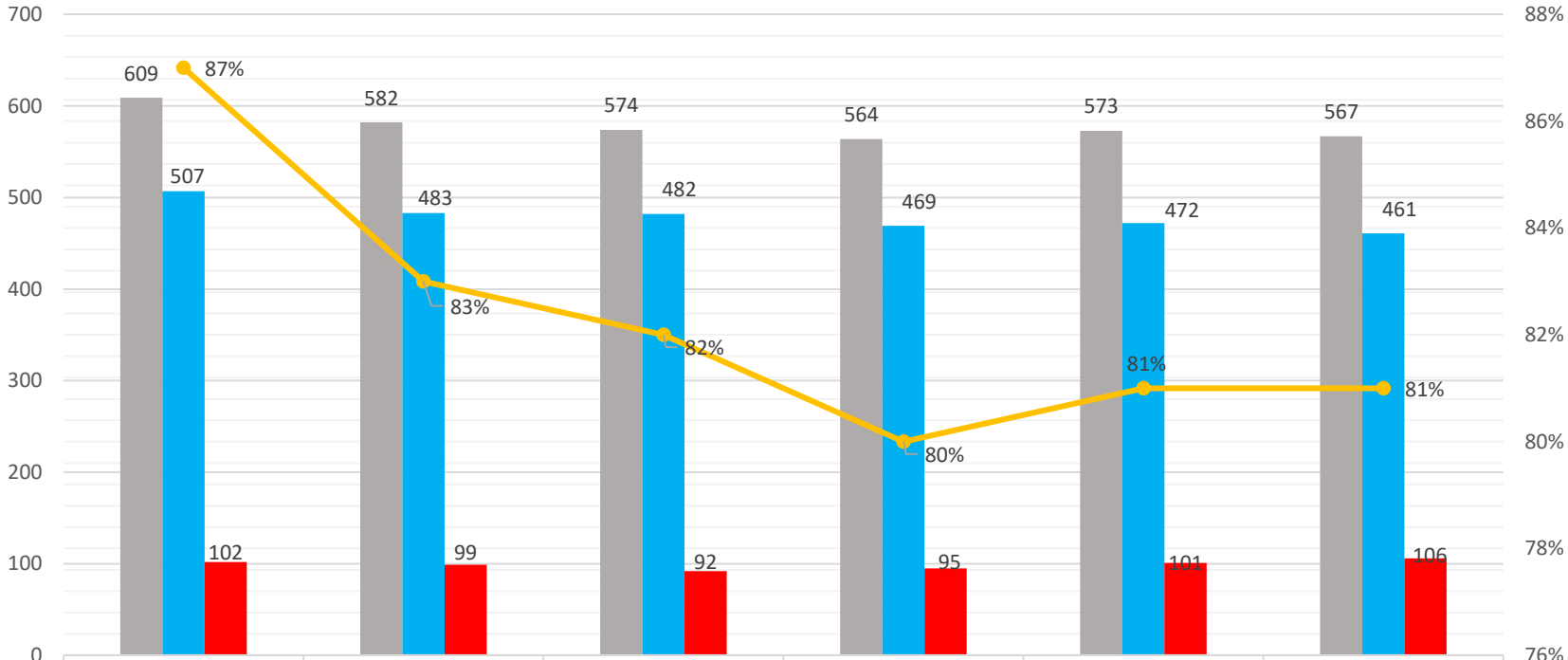


## 志村消防団員数の推移



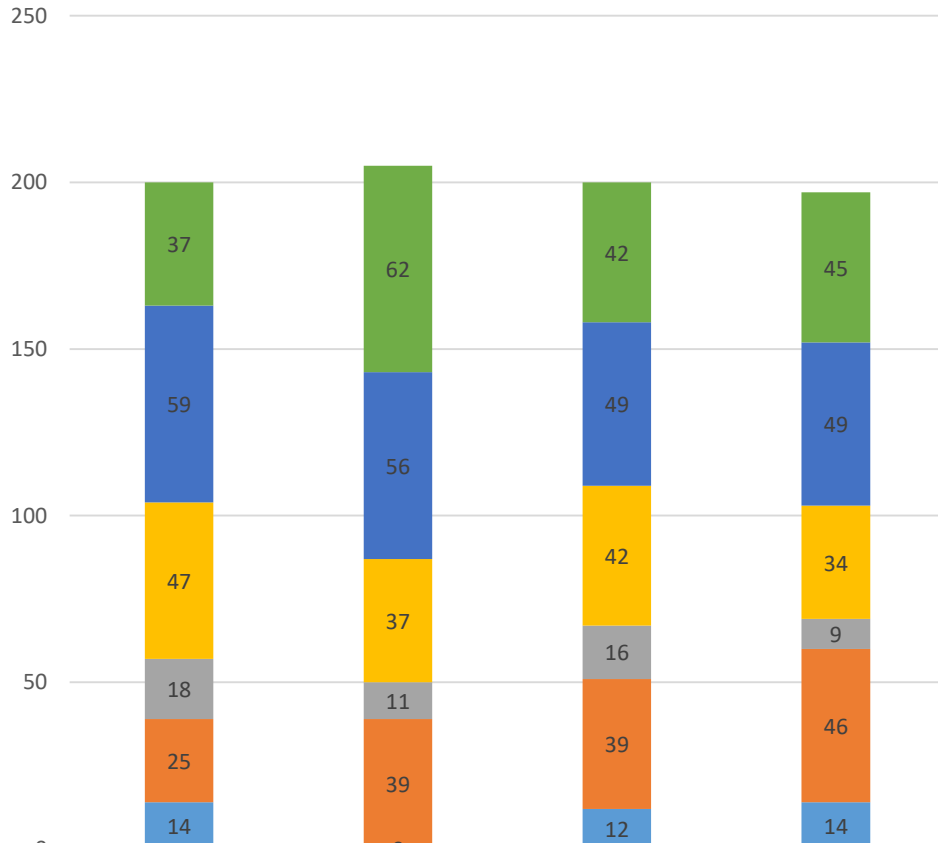
■ 合計	326	333	322	311	320	324
■ 男性	283	283	277	269	275	274
■ 女性	43	50	45	42	45	50
● 充足率	93%	95%	92%	89%	91%	93%

# 板橋区団員数の推移



	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
■ 合計	609	582	574	564	573	567
■ 男性	507	483	482	469	472	461
■ 女性	102	99	92	95	101	106
● 充足率	87%	83%	82%	80%	81%	81%

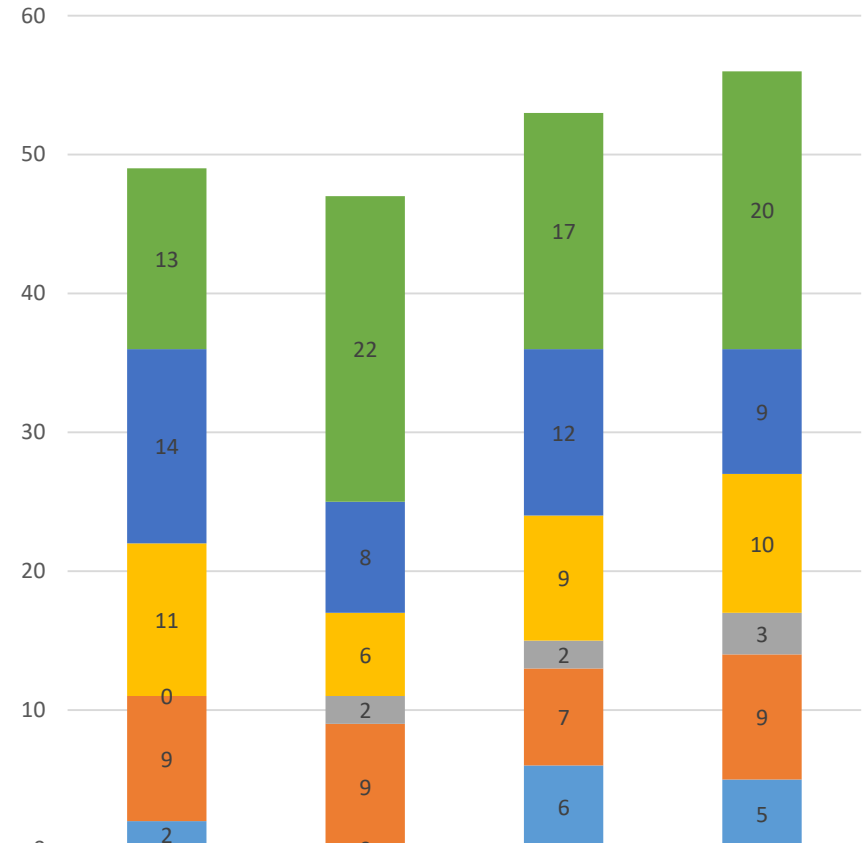
板橋消防団 年代別団員数の推移(男性)



60代以上	37	62	42	45
50代	59	56	49	49
40代	47	37	42	34
30代	18	11	16	9
20代	25	39	39	46
10代	14	0	12	14

■ 10代 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代以上

板橋消防団 年代別団員数の推移(女性)

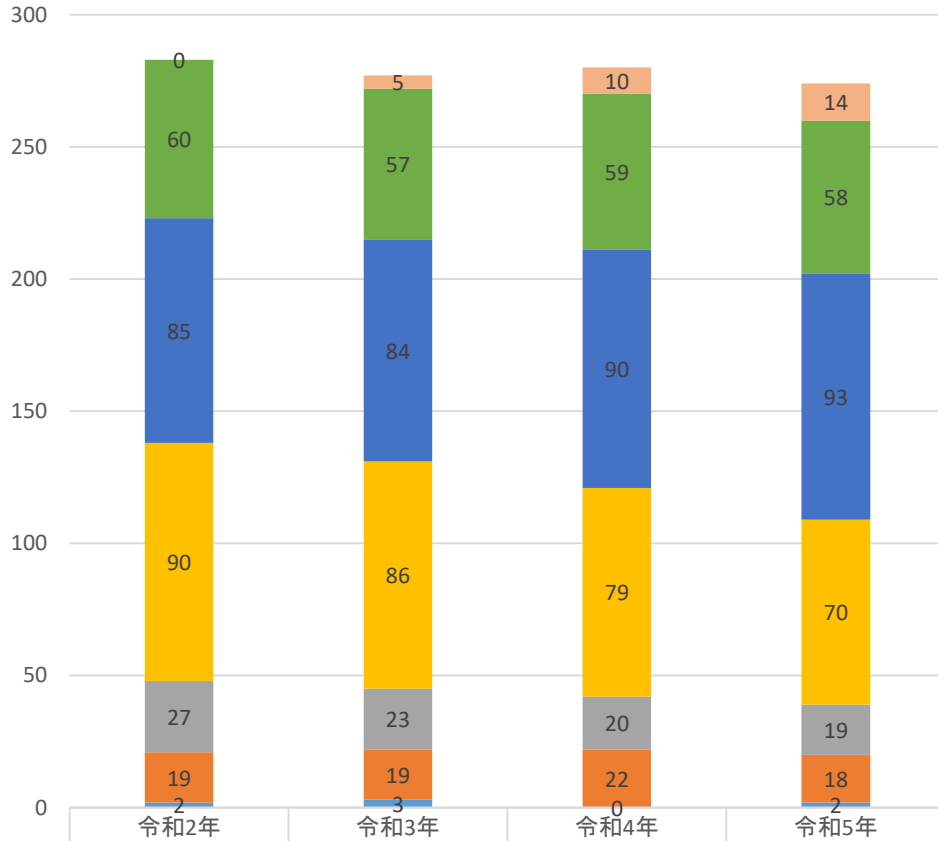


60代以上	13	22	17	20
50代	14	8	12	9
40代	11	6	9	10
30代	0	2	2	3
20代	9	9	7	9
10代	2	0	6	5

■ 10代 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代以上



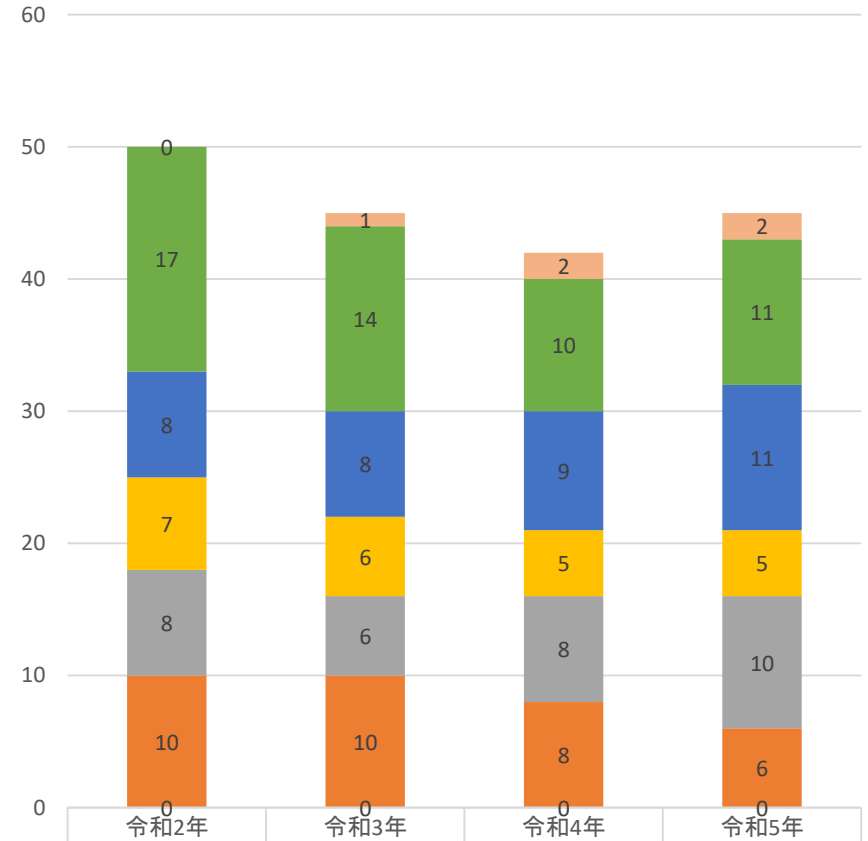
志村消防団 年代別団員数の推移(男性)



70代以上	0	5	10	14
60代	60	57	59	58
50代	85	84	90	93
40代	90	86	79	70
30代	27	23	20	19
20代	19	19	22	18
10代	2	3	0	2

■ 10代 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代以上

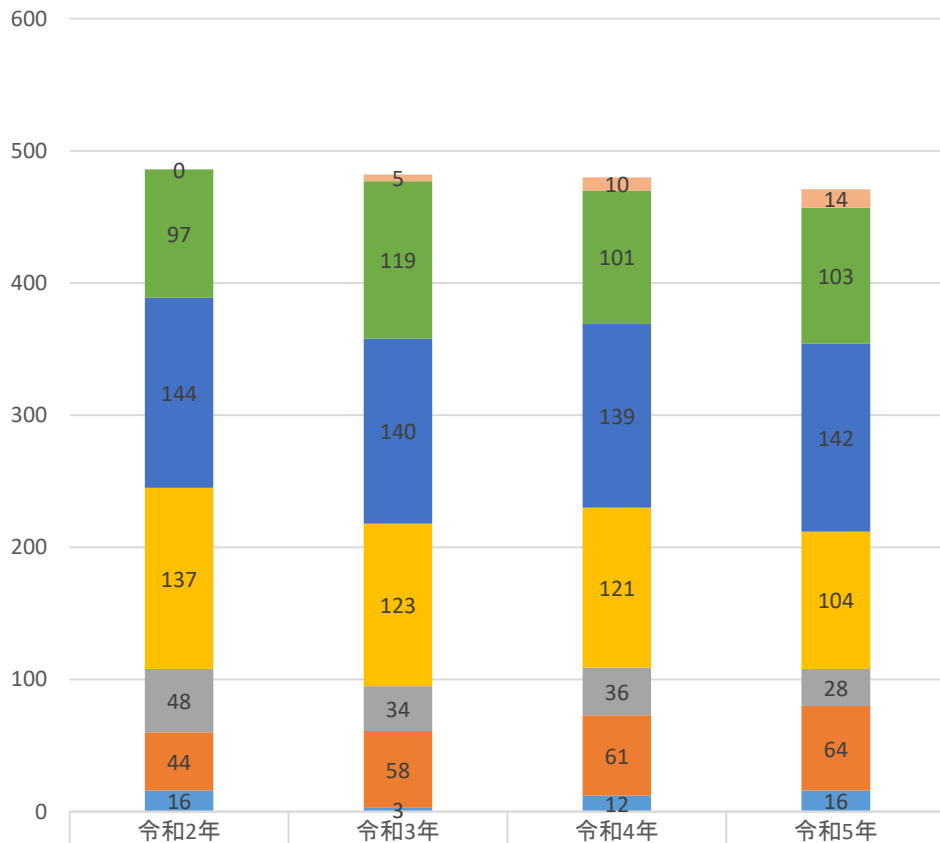
志村消防団 年代別団員数の推移(女性)



70代以上	0	1	2	2
60代	17	14	10	11
50代	8	8	9	11
40代	7	6	5	5
30代	8	6	8	10
20代	10	10	8	6
10代	0	0	0	0

■ 10代 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代以上

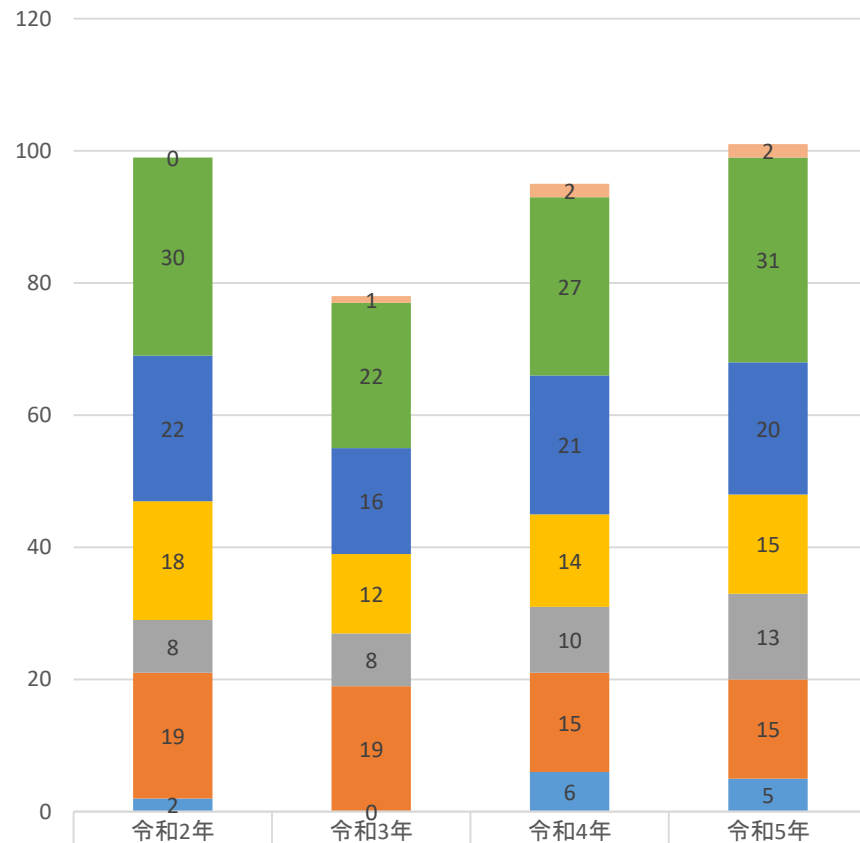
板橋区 年代別団員数の推移(男性)



70代以上	0	5	10	14
60代	97	119	101	103
50代	144	140	139	142
40代	137	123	121	104
30代	48	34	36	28
20代	44	58	61	64
10代	16	3	12	16

10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上

板橋区 年代別団員数の推移(女性)



70代以上	0	1	2	2
60代	30	22	27	31
50代	22	16	21	20
40代	18	12	14	15
30代	8	8	10	13
20代	19	19	15	15
10代	2	0	6	5

10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上